

リライトの条件		
I	主人公にした人物の心情を書く。 ↓ 主人公は「父父親」にする。	I
II	主人公にした人物の視点から出来事を書く。	II
III	表現の仕方をまねる。	III

● リライトする場面とその理由

リライト作品チェック欄Ⅱ自己評価して記入しよう  
◎とてもよくなった ○できた △あまりできなかった

P 78	L 3511	リライトする場面	選んだ理由
		父親が速達で盆に帰るといふことと、盆土産にえびフライを買ってくることを伝えてきた場面。	盆には帰れぬといていた父親が急に帰れるようになった理由も興味がわいたし、伝票のような紙切れに濃淡の著しいボールペンの文字で手紙が書かれていたことから想像がふくらんだから。

● リライト作品と解説



リライト作品	「父父親」を主人公にして	解説
えびフライ。子どもたちはあんな大きなえびは見たこともあるまい。きつと大喜びすることだろう。家に油はあっただろうか。ソースも婆っちは使いはしなかったろう。買っておくように言っとかんとな。父親は仕事を終えたそのままの足で、開いたばかりの郵便局へ入った。そして受付の机に置いてある伝票を一枚手に取り、伝票の裏にボールペンで『盆には帰る。十一日の夜行に乗るすけ。土産は、えびフライ。油とソースを買っておけ。』と書き付けた。ふだん書き慣れない字を書く上に、ボールペンの付きが悪く、何度もなぞり書きしなければならなかった。父親は、必要なことだけ書いたその紙を、郵便局備え付けの封筒に入れ、速達の手続きをした。あとは明日に備えて準備をしなければならない。	☆「えびフライ」を段落の最初に書いて、故郷に残している家族のことを思っている父親の気持ちを書いたところ。↓物語の冒頭部分で主人公の少年が父親のために「ジャッコ」釣りをしながら「えびフライ」とつぶやき、姉のやり取りや父の速達のことを回想しているところに合わせて。「えびフライ」を家族の愛情の象徴としたかったから。 ☆地の文に心内語を書いて心情を表現した。 ☆心内語に「婆っちゃん」と方言を用いた。 ↓生活感や、実感を強めたりしたかったから。 ▽父親の速達の「封筒の中には、伝票のような紙切れが一枚入っていて、その裏に濃淡の著しいボールペンの文字でこう書いてあった。」と書いてあったところから、仕事上がりの足で郵便局に向かい、郵便局の伝票で速達の文面を書いたと想像した。	